

# イギリスの地理教育で身に付けうる 「シティズンシップ力」に関する研究

— GCSE 試験に注目をした考察 —

A study on “Citizenship Skills” that can be Acquired in Geography Education in the UK  
— A Discussion Focusing on the GCSE Exam —

河面 涼代\* 薬袋 奈美子\*\*  
Sumiyo KAWAMO Namiko MINAI

**要約** 2022年以降に高等学校教育において、地理総合が必修化されることが文部科学省から発表された。改訂後の教育方針の、「持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する」ことは、近年注目されている住民参加型まちづくりにも必要なシティズンシップ力である。そこで、本研究では、シティズンシップ教育に力を入れているイギリスの地理教育を分析することで、地理教育で身に付けうるシティズンシップ力に関して、明らかにしていくことを目的とした。結果として、イギリスの地理教育には、三つのシティズンシップ力全てが含まれていた。中でも特に、スキルと、相手に自分の意見を説明する力が重要視されていた。主体的な市民に育てることを目的とした教育カリキュラムになっていることが確認できた。

**キーワード**：まちづくり、シティズンシップ、市民参加、イギリス、地理教育

**Abstract** The Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology announced that general geography will be compulsory in high school education starting in 2022. Once the educational policy is revised, “contemporary geography topics will be discussed with a focus on the relationship between environmental conditions and human activities in order to create a sustainable society.” Citizenship skills are needed to create municipalities with citizen involvement. This topic has garnered attention over the past few years, so the current study has analyzed geography education in the UK since it emphasizes citizenship education. The aim of this study was ascertain how citizenship skills can be acquired in geography education. Results indicated that three citizenship skills were included in geography education in the UK. Skills and the ability to explain one’s opinion to someone else are highlighted. Results indicated that the educational curriculum seeks to foster independent citizens.

**Key words** : Town planning, Citizenship, Citizen participation, England, Geography education

## 1. 研究の背景と目的

2022年以降に高等学校教育において、地理総合が必修化されることが文部科学省から発表された<sup>1</sup>。近年注目されている住民参加型まちづくりでは、こ

---

\* 家政学研究科住居学専攻  
Dept. of Housing and Architecture  
\*\* 住居学科  
Dept. of Housing and Architecture

ここで謳われている、「環境条件と人間の営みとの関わりに着目」できる知識と、それを使いこなして「現代の地理的な諸課題を考察する」スキルが必要とされている。

こうした知識、スキル、そして主体的な市民となる意識を「シティズンシップ」という独立した科目で、義務教育課程で扱っているのがイギリスである。

そんなイギリスの学校教育では成績評価の一つとして、日本の中学卒業の時期に、GCSE と呼ばれる義務教育過程修了試験がある。この成績が大学入試まで影響するため、多くの教員・生徒がこの試験での成績を上げることに注力する、重要な試験である。

これまでイギリスの地理教育に関しては、渡辺<sup>2</sup>、上野<sup>3</sup>、志村<sup>4,5,6,7,8</sup>、森田<sup>9</sup>らの論文がある。1984年の渡辺の研究は、シミュレーションゲームを活用して想像力を豊かにするイギリスの教科書について触れている。1994年の上野の研究では、イギリスの地理教育の変遷について述べており、1998、2004年、2011年、2012年、2015年に渡って志村はイギリスの地理教育に関する研究を発表している。ここではイギリスの地理教育がどのように人気科目としての地位を築いたのかについてと、カリキュラムの変遷に注目した分析などが行われている。2014年の森田の研究ではイギリスの地理教育が地学の知識も扱っていることに着目して、新しい防災教育の形を示している。

シティズンシップ教育に関しては、新井<sup>10</sup>、奥村<sup>11</sup>、大津<sup>12</sup>、松尾<sup>13</sup>らの論文がある。2008年に新井がイギリスのシティズンシップ教育の特徴を述べている。特に政治への市民参加に与える影響について述べており、シティズンシップ教育による市民としての自覚と能力の向上が選挙、投票の啓蒙に繋がると結論づけている。2009年の奥村の研究では、英米のシティズンシップを比較している。学校での事例を挙げながら、今後の展望と課題を述べている。2010年の大津ら、2013年の松尾がシティズンシップ教育の概要について、シティズンシップが地域コミュニティに与える影響に着目してまとめている。

イギリス以外も含めた、地理教育とまちづくりの関連に関しては、若林・葉袋<sup>14</sup>、國原<sup>15</sup>らの論文がある。2008年の若林らの研究では、フィンランドの地理教科書に都市計画教育に関する記載があることに着目して研究している。特に教科書内の設問に注目し、どのような問いが出され、それによって何を

に着けさせようとしているかについて述べている。2015年の國原の研究では、防災教育と地理教育の関連について述べており、イギリスの防災教育では有事の意思決定について学習していることが示されている。

そこで本論では、イギリス国内で重要視されている GCSE 試験の考察を通じて、地理教育で身に付けうる「シティズンシップ力」に関して、明らかにしていくことを目的とする。

分析に用いたのは、GCSE 地理の試験問題<sup>16</sup>である。GCSE 試験は複数の出版社が作成しているが、今回はイギリスでのシェアが高い Pearson 社が出版している Edexcel GCSE 地理 2015 年度版の、Foundation Tier という一般的なレベルの試験問題を分析に用いた。

## 2. GCSE の内容整理

試験問題を分析するにあたって、経済産業書から出されている『シティズンシップ教育宣言』<sup>17</sup>内のシティズンシップの定義と、シティズンシップを発揮するために必要な能力を確認し (Table1)、GCSE 対策用の参考書<sup>18</sup>の学習内容と照らし合わせ、GCSE を通して学習することが出来るシティズンシップ力の確認を行った。「シティズンシップ教育宣言」によると三つの能力のうち、「意識」は能動的な学びの中で身につくものだとして述べられている。そのため今回は「知識」と「スキル」について分析を行った。

Table.1 Summary of citizenship skills

定義	多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な市民と積極的にかかわろうとする資質	
	意識	自分自身に関する意識／他者とのかわりに関する意識／社会への参画に関する意識
	知識	公的・社会的な分野での活動に必要な知識／政治分野での活動に必要な知識／経済分野での活動に必要な知識
必要な能力	スキル	自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル／情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル／他者とともに社会の中で自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル

経済産業省「シティズンシップ教育宣言」経済産業省経済産業政策局（2006年）より筆者作成

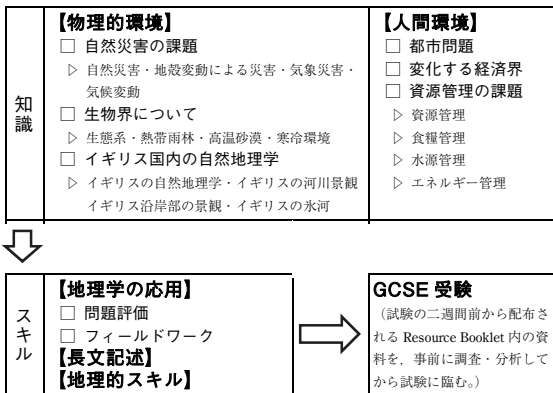
GCSE 対策用の参考書の構成として特徴的なのは、「知識」を学んだ後に、「スキル」を学ぶ点である。(Fig.1) また、「知識」では、地震災害に関する単

元で地殻変動の仕組みを取り扱うなど、地学的な学びも含まれている。

「スキル」は大きく「地理学の応用」「長文記述」「地理的スキル」の三種類に分けられる。(Table2) この基本的な地理に関するスキルの習得が参考書全体の21%のページ数を占めている。これらのスキルを身につけることで、基礎的な作業が間違いなくできるようになり、分析・加工のされていない一次情報を、自らの力で読み解く習慣の形成に繋がる。

また、社会の課題に対する評価の方法や、現地調査の方法等について丁寧な説明がされている点も、日本の教科書と異なる。更にフィールドワークを実施することが義務付けられており、データの収集、分析、考察についても学習内容として重要な位置付けにある。自らの力で社会を見るというシティズンシップ力の基本的な点を、地理学を通して実践しよ

Figure.1 Knowledge and skills learned in reference books and the system for learning



Pearson 「REVESE AQA GCSE (9-1) Geography REVISION GUIDE」(2017年)より筆者作成

Table.2 Skills to learn from textbooks

<b>【地理学の応用】</b> <input type="checkbox"/> 問題評価 ・ 問題評価の方法 ・ 現地調査の方法 ・ 情報の活用方法 <input type="checkbox"/> フィールドワーク ・ データの見方 ・ データの分析 ・ 分析の考察	<b>【地理的スキル】</b> ・ 地図帳と地図の使い方 ・ 地図とスケールの種類 ・ グリッド参照と距離 ・ 断面図と起伏 ・ 地図の書き方 ・ 写真、図の使い方 ・ グラフ (折れ線・棒・円・分布図) ・ ピクトグラム、ヒストグラムの使い方 ・ 人口ピラミッド ・ コロプレスマップの使い方 ・ 流線図 ・ 統計と分析
<b>【長文記述】</b> ・ 文章の書き方 ・ 結論の導き方 ・ 判断の仕方	

Pearson 「REVESE AQA GCSE (9-1) Geography REVISION GUIDE」(2017年)より筆者作成

うとする姿勢を読み取ることができる。参考書で学ぶスキルは GCSE 本番でも、配点の高い問題を解くために必要となっている。暗記型の日本の地理教育とは違い、「知識」と「スキル」を活用し解く力が重要視されている。

### 3. GCSE 地理の全体像

#### 3-1 GCSE 地理の概要

GCSE は日本の高校入試に相当し、義務教育課程修了試験として課される。

今回は、2015 年度の試験を分析に使用した。(Table3) GCSE 地理にはレベルが2つあり、Foundation Tier という一般的なレベルと、Higher Tier という応用問題がある。Higher Tier の方が、Foundation Tier と比べて、記述問題が多い。今回は、GCSE 地理で特に重要視されている設問を分析することを目的としているため、重要箇所がわかりやすい Foundation Tier を分析対象とした。

また、GCSE 地理では、GCSE 対策用の参考書という資料集が試験二週間前に配布され、資料を調査・分析してから受験する。この調査・分析の方法も、GCSE 対策用の参考書内で「問題評価の方法」というスキルとして扱っている。GCSE 対策用の参考書に設問は載っておらず、個人のリサーチ力によって、本番でどれだけ点を取れるかが決まってくる。

リサーチ力は、まちづくりにおける市民参加の場においても重要である。なぜなら情報を待っているだけではなく、自ら調査し、分析する市民が増えることが、主体的なまちづくりには欠かせないからである。

このように、イギリスでは GCSE を通して、実際のまちづくりの場でも必要とされる「得られた情報を手がかりに更に情報を集め、自分が持つ知識と

Table.3 Overview of GCSE Geography 2015

使用した問題: Pearson Edexcel GCSE Geography A	Foundation Tier			
	試験日	試験時間	ページ数	Resource Booklet の有無
Unit1 Geographical Skills and Challenges 地理的スキルと課題	2015/5/19	60分	12頁	有り
Unit2 The Natural Environment 自然環境	2015/6/3	75分	19頁	有り
Unit3 The Human Environment 人間環境	2015/6/9	75分	20頁	有り

Pearson Edexcel GCSE 「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

スキルを使い、解釈し、課題を解決する力」を身につけられるようになっている。

### 3-2 設問種別分類の分析と考察

まず、GCSEの設問を、解答形式別に分類した。設問種別の問題数と設問種別の得点の比較表( Table4)を見ると、問題数では、選択問題と記述問題がほぼ同数であったのに対し、得点は、記述問題が、選択問題のおよそ八倍であることが読み取れる。

日本の入試は、高校でも大学でもマーク式が多いが、GCSEは、中学卒業レベルの統一試験でありながら、記述問題が、多いのが特徴である。イギリスの学校教育では、自分の意見を述べさせる傾向があり、これは、シティズンシップ教育の「意識」の醸成に大きく関わっていると考えられる。

記述式の問題では、思考力や、リテラシーなど、暗記以外の能力を合わせた、総合的な解答能力が必要である。日本では、そうした能力が試される試験自体が少なく、記述式であったとしても設問数は少ない傾向がある。そのため、自分の意見をまとめて、他人に伝わるように述べるという、まちづくりに必要な力が身につかないまま、義務教育を終えてしまっている。

**Table.4** Number of problems by type and percentage of scores on the GCSE exam conducted in 2015 (All 97 questions)

	問題数	問題数割合	得点	得点割合
選択	42	43%	43	19%
穴埋め	8	9%	32	14%
記述	47	48%	145	65%

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

## 4. 設問内容の分析

### 4-1 問いの用語別類型の分析と考察

試験問題の設問を、問いの用語別類型別に分類し、問いごとの配点率を算出( Table5)したところ、「Study」に次いで、「Describe」「Outline」「Explain」という問いの配点率が高いことがわかった。これらの質問が試験の中で重要視されていることが読み取れる。

また、「Study」以外の三つの問いは、全て記述式解答の設問であった。そして、この三つの問いが含まれる設問の配点割合が全体得点の43%を占めて

いる。

また、これらをユニット別に見てみても、ユニットごとに違いがほぼ無いことから、全体を通して選択問題・穴埋め問題・記述問題のバランスが取れた設問構成となっていることがわかる。( Table6)

**Table.5** Way in which a question was worded and percentage of scores

質問	設問数	設問数割合	得点	配点割合	選択	穴埋め	記述
Study	55	35%	99	33%	34	5	16
Describe	14	9%	45	15%	0	0	14
Outline	15	9%	44	14%	0	0	15
Explain	8	5%	44	14%	0	0	8
Complete	9	5%	33	11%	0	8	1
State	4	2%	12	4%	0	0	4
What	4	2%	4	1%	1	0	0
Suggest	3	1%	4	1%	0	0	3
Identify	2	1%	4	1%	0	0	2
Draw	1	0.6%	4	1%	0	0	1
Which	35	22%	2	0.6%	35	0	0
Find	2	1%	2	0.6%	2	0	0
Choose	1	0.6%	2	0.6%	1	0	0

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

**Table.6** Total by question wording (by unit)

	Unit1 Geographical Skills and Challenges 地理的スキルと課題	Unit2 The Natural Environment 自然環境	Unit3 The Human Environment 人間環境
Study	13	18	24
Describe	3	7	4
Outline	4	4	7
Explain	2	3	3
Complete	3	3	3
State	2	0	2
What	2	1	1
Suggest	0	2	1
Identify	0	0	2
Draw	0	1	0
Which	3	16	16
Find	2	0	0
Choose	1	0	0

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

### 4-2 問いかけ (Command words) に対する答え方の違い

Unitごとの設問の構成を確認したところ( Table7, 8,9), Unit1.2.3共に「Study」「Which」「Choose」という問いで基本的な事項の確認を行っている傾向が読み取れる。続いて後半の設問では、「Describe」

Table.7 Unit 1 Question structure

大問番号	1	2	3	4	5
Study	■	■	■	■	■
Which			■	■	■
Choose			■		
Draw					
Identify					
Find	■				
What		■			
Complete		■	■	■	
Explain					
Outline		■	■	■	
State			■		
Discribe		■			■
Suggest					

■で塗りつぶした問いが、表の左から右の順で出題されている。  
 Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

Table.8 Unit 2 Question structure

大問番号	1	2	3	4	5
Study	■	■	■	■	■
Which	■	■	■	■	■
Choose					
Draw	■				
Identify					
Find					
What					■
Complete	■	■	■		
Explain		■			■
Outline	■	■	■		■
State					
Discribe			■	■	■
Suggest				■	■

■で塗りつぶした問いが、表の左から右の順で出題されている。  
 Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

Table.9 Unit 3 Question structure

大問番号	1	2	3	4	5
Study	■	■	■	■	■
Which	■	■	■	■	■
Choose					
Draw					
Identify				■	■
Find					
What				■	
Complete	■	■	■		
Explain		■			■
Outline	■			■	■
State		■	■		
Discribe		■	■	■	
Suggest		■			

■で塗りつぶした問いが、表の左から右の順で出題されている。  
 Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

「Outline」「Explain」等の記述を中心とした問題が設定されている。設問の展開としては「Complete」で穴埋め問題を解かせた後に、「Explain」→「Describe」と続いていくパターンが多い。「Outline」は Unit3 で多く用いられており、「Explain」「Describe」とは同時に出題されないパターンが多く見られた。全体として、Unit1 が段階的に設問を展開しており、Unit2,3 と進むに連れて、基礎知識の確認の後、いきなり記述問題が出題される傾向にあった。難易度が Unit3 に行くほど高くなっていることがわかる。

「Describe」「Outline」「Explain」の問いに共通するのは、自分の意見を根拠立てて説明するスキルが必要であることだ。これは GCSE 対策用の参考書内の、「長文記述」の項目で学習する内容である。こうしたスキルは、多様な市民と共働しなければいけないまちづくりの場においても、自分の意見を提案に反映させるために必要な力である。これらの単語を日本語訳すると、「Describe」「Outline」「Explain」のどれも「述べよ」「説明せよ」などになり、単語自体に深い意味はない。しかし、GCSE 試験においては、問いに使われる「Describe」「Outline」「Explain」等の単語に関して、単語ごとに解答すべき方向性が異なる。これらは Command words と呼ばれる。Command words に対して適切に解答することが重要視されるため、イギリスでは単語ごとの模範解答を、地理や国語 (English) の中で学習するカリキュラムになっている。Pearson や AQA 等の GCSE を出版している出版社の GCSE 対策用ホームページ<sup>19,20,21</sup>を複数確認したところ、「Describe」は事実を踏まえて論じることが求められる、「Outline」は主な特性を述べることが求められる。「Explain」はなぜ、どのように、何が起こるかの理由を述べよという意味で使われている。(Table10)

#### 4-3 「Describe」「Outline」「Explain」から始まる問いの設問内容と考察

続いて配点割合が高かった「Describe」「Outline」「Explain」の問いと模範解答を示す。(Table11,12,13)「Describe」では、より詳細に、事実を踏まえて論じることが求められていることが読み取れる。そのため、大問の中の最後の設問であることが多く、A4一枚分記述させる問題もある。「Outline」では主な特性を述べることが求められているため、設問中にも事象が引き起こす影響を答えさせるような問い

Table.10 Examples of questions and answers

Describe ↓ 事実を踏まえて論ぜよ。 (論じる)	AQA	-
	edexcel	事実、情報、出来事、またはプロセスを論理的な順序で結びつけて解答する。 Give an account of something, or link facts, information, events or processes in a <b>logical order</b> .
	Kirkby Stephen Grammar School	詳細に、簡潔にあなた自身の言葉で述べる。what / how /等の単語を正確に使用する必要があります (科学的な事柄については科学的用語を用いて解答すること) <b>A detailed account</b> . More simply – ‘Write down...’ Tell the examiner in your own words what/ how/ or why something happens; must use words precisely (in scientific subjects this means <b>using scientific terms</b> ).
Outline ↓ 主な特性を述べよ。	AQA	主な特性を述べる。 Set out <b>main characteristics</b> .
	edexcel	-
	Kirkby Stephen Grammar School	最も重要な詳細のみを述べる。簡単な概要/簡単な説明では、点数は小さくなる。 Give <b>only the most important details</b> / give a brief overview/ a brief explanation – often carries fewer marks.
Explain ↓ なぜ、どのように、何が起こるかの理由を述べよ。	AQA	目的や理由を明らかにする。 Set out <b>purposes or reasons</b> .
	edexcel	どのように、何が起こるのかを記述することが重要である。 Say how or why something happens; ‘because’ will be an important part of your answer.
	Kirkby Stephen Grammar School	なぜ、どのように、何が起こるかの理由を挙げる。例を挙げる必要がある。 <b>Give reasons</b> for how or why something happens; you need to give examples. They are questions which normally carry a lot of marks and they require you to treat the subject analytically – often using a P.E.A paragraph will help in certain subjects.

AQA,edexcel, Kirkby Stephen Grammar School ホームページより引用

が多い。「Describe」よりも簡潔な解答が求められるが、きちんと主要な特徴を抑えておくことが重要視されており、知識を丁寧に説明することが求められている。また、「Outline」は Unit3 で多く見られた。最後に「Explain」では理由を挙げて因果関係を社会の問題に照らし合わせて説明することが求められる。そのため、どのように (how) といった単語が一緒に用いられることが多く、変化する事象、

進行中の事象に対する問いに対して用いられることが多く、特に Unit3 の産業系の話題でよく用いられていた。

Table.11 Questions beginning with Describe

1-1-4	OS マップを参照し、森林地帯の分布について論じなさい。
1-3	あなたが立てた仮説について論じなさい。その際に、事例や地理的な知識を用いなさい。
1-4-4	気候変動による地方の変化について論じなさい。
2-2-3	教育や計画により、氾濫災害はどのように減らすことができるか、例を用いて論じなさい。
2-3-5	リソースブックレットの図 3b に関して、プレートが集中している地帯で、どのように火山が形作られるかについて論じなさい。
2-4-2	図 4a のごみ箱に書いてある文字について論じなさい。
2-4-4	先進国のごみ処理に関して一つの方法について論じなさい。
2-4-5	家庭内の無駄なエネルギーについて論じなさい。
2-5-2	図 5a に示す給水方法について論じなさい。
2-5-3-3	先進国の水の供給に関する問題点を一つ論じなさい。
3-2-3	人口減少によってもたらされる、遠隔農村部の変化について論じなさい。
3-2-4	選んだ国に関して、出生率を上げるためのきっかけになるものを論じなさい。
3-3-5	若年人口の欠点について論じなさい。

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

Table.12 Questions beginning with Outline

1-2-1-1	なぜこの場所が風力発電所として適しているか理由を一つ述べよ。
1-2-2	ポッドハムヒルに関する情報を GIS でより多く知るための方法を述べよ。
1-4-2-2	気候変動によって異なる地形になる理由を一つ述べよ。
1-5-2	熱帯雨林環境での資源確保が与える影響を、例を用いて述べよ。
2-1-3	波や風がどのように崖の後退に影響しているかを、それぞれ述べよ。
2-2-2	川は三つのステージに分けることができるが、図 2b にあるバージン川はどのステージか。またそれを選んだ理由を二つ述べよ。
2-3-4	計画と教育によって地震の被害を減らす方法を二つ述べよ。
2-5-4	家庭内における水道管理の方法について述べなさい。
3-1-2	新興国と貧困国における第二次産業が受ける影響を一つ述べよ。
3-4-2-1	1945年にヨーロッパに流入した有名な民族について、その理由を一つ述べよ。
3-4-2-2	移民が相手国にもたらす二つの影響を述べよ。
3-4-4	退職した移民が与えるネガティブな影響を一つ述べよ。
3-5-2-1	EU の有名なリゾートを取り上げ、バトラーモデルにおける統合段階であることを証拠を一つ挙げながら述べよ。
3-5-2-2	観光客の増加が環境に与える二つの影響を述べよ。
3-5-4	エコツーリストの目的地として有名な地方に与えるポジティブな影響について述べよ。

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

Table.13 Questions beginning with Explain

1-4-3	地球表面のメタンガスが増加している理由を述べよ。
1-5-3	森林破壊を食い止め、持続可能な社会にするために、いくつかの大きな組織でどのような政策が行われたか述べなさい。
2-1-4	図 1b を参照し、他の沿岸地形の形成においてはどのような地理的影響があるか説明しなさい。
2-4-6	再生可能エネルギーの発展が環境に与える影響について説明しなさい。
2-5-5	貧困国の小さなコミュニティにおける水の供給のためにふさわしい技術はどのようなものか、例を用いて説明しなさい。
3-1-4	地方の非産業化がなぜ利益をもたらすのかについて述べなさい。
3-4-5	どのような技術と運輸の発展が、世界中の人口移動を増加させているかを説明しなさい。
3-5-5	社会的、経済的要因が、観光産業の発展をどのように引き起こしているかを説明しなさい。

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015年)より筆者作成

また、Unit ごとの設問傾向の違いは、Unit2 の自然環境の項では、事実をしっかりと説明することが求められ、Unit3 の人間環境の項では人口、貧困、移民問題、観光など国際的な話題が問われる。

#### 4-4 設問の展開

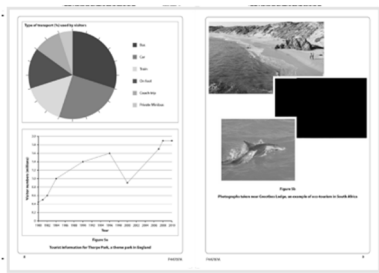
「Describe」「Outline」「Explain」が含まれる大問の一例を示す。(Table14)大問は、経済・自然環境・雇用・観光など、横断的なテーマで展開されており、一つの事象に対して多角的な視点で考える力がつく。記述問題の模範解答には、解答に必要な用語・要素が並べられており、論理的な文章構成はもちろん、客観的にわかりやすく伝えるための知識とスキルがなければ解答出来ないようになっている。

“Unit1 Geographical Skills and Challenges (地理的スキルと課題)”ではスキルが習得されているかどうかを直接問う設問が重視され、“Unit2 The Natural Environment (自然環境)”“Unit3 The Human Environment (人間環境)”ではスキルがあることを前提に設問が展開されている。

どの設問でも用いる知識は、幅広く、地形、気候などの地学的なものから、経済や観光、運輸までである。また、問いの範囲はイギリス国内外問わず出題されている。国や社会などの比較的大きな範囲の地域が抱えている問題について考える問いが多いが、この問いに答えることも、他者とのかわりに関する意識や、社会への参画に関する意識を醸成するきっかけになっている。

また、解がひとつではない点も特徴的である。「〇〇に関して、二つ例を挙げて述べよ。」といっ

Table.14 Examples of questions and answers

設問	設問の種類	配点	模範解答
(a) リソースブックレットの図 5a を参照せよ。ソープパークは南イングランド最大のテーマパークの一つである。主なアトラクションは、ローラーコースターと家族や若者アクティビティである。			 <p>Resource Booklet</p>
(i) テーマパークは、次のどのタイプの観光か？	【選択問題】	1	
(ii) ソープパークの訪問者数は、どの年の間に最も増加したか？	【選択問題】	1	
(iii) ソープパークへの訪問者が使用した輸送手段の記述として次のうち最もよく表しているものはどれか？	【選択問題】	1	
(iv) 2000 年から 2005 年の間のレポート開発の段階は？	【選択問題】	1	
(b)(i) パトラーモデルに関する証拠を一つ述べよ。	Outline	2	<p>選択した EU のレポートは、現在、連結段階を経ているか、または連結段階を経なければならぬ。</p> <p>パトラーモデル：輸送ルートが改善されている (1)</p> <p>観光客数が増加している (1)</p> <p>現地経済は現在観光に依存している (1)</p> <p>環境が悪化し始めた (1)</p> <p>一部の地元の人々が観光客をよく思っていない (1)</p> <p>統合段階の間に何が起きたか/起きているかについての記述があることが採点の要点。</p> <p>EU のレポートの名前を挙げるだけでは加点はないが、解答の必須項目である。</p>
(b)(ii) 観光客の増加が環境に与える二つの影響を述べよ。	Outline	2	<p>以下から二つ記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ捨て (1)</li> <li>生息地の喪失 (1)</li> <li>ホテルを建設するためのスペースを提供する (1)</li> <li>観光客の追加需要のために水道に負担をかける (1)</li> <li>観光開発/ホテルからのゴミによる川 (または海水/湖) の汚染 (1)</li> <li>観光客の教育を通して環境が保存される (1)</li> <li>サンゴ礁の破壊 (1)</li> <li>サファリ休暇の人々 (1)</li> <li>歩道に出ているハイカーによる野生生物の混乱 (1)</li> <li>飛行機数の増加による大気汚染 (1)</li> <li>観光客を運ぶ交通量の増加による騒音公害 (1)</li> <li>観光客の大量の混雑による騒音公害 (1)</li> </ul>
(c) リソースブックレットの図 5b (写真) を参照せよ。エコツーリズムを目的とした Grootbos Lodge の二つの物理的魅力を述べよ。	Outline	4	<p>以下から二つ記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>崖 (1)</li> <li>海 (1)</li> <li>砂浜・ビーチ (1)</li> <li>美しい景色 (1)</li> <li>良い天気 (1)</li> <li>サファリ (1)</li> <li>野生動物・イルカ (1)</li> </ul>
(d) 地方の観光地に与えるポジティブな影響について述べよ。	Outline	2	<p>以下から一つ記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の雇用の増加 (1)</li> <li>観光地の収入が地元還元される (1)</li> <li>地元の人々が伝統的に働いていたときよりも所得が高くなる (1)</li> <li>地元の職員が、1 年を通して賃金を受け取れるようになる (1)</li> </ul>
(e) 社会的、経済的要因が、観光産業の発展をどのように引き起こしているかを説明しなさい。	Explain	10	<p>以下の要点を述べる</p> <p>有給休暇の権利/過去よりも労働時間が短縮/余暇活動を追求するための自由時間 (多くの場合資金) を持っている人々はより高度な余暇の楽しみ方が出来る</p> <p>これらは、多くの HIC でよく見られる「消費者文化」の一部である。その他、世界の観光の成長を引き起こした可能性のある経済的要因には以下のものが考えられる。</p> <p>より多くの可処分所得/より高い賃金・最低賃金の存在/有利な為替レート/低価格の航空会社</p>

Pearson Edexcel GCSE「Geography A Foundation Tier」(2015 年)より筆者作成



た、各自がリソースブックレットを基に調査してきた多数の情報から、出題された設問に合わせて試験時間中に、情報を取捨選択して解答する必要がある。こうした力は、自分の意見を根拠立てて相手に伝えるという力や、情報の適切で効果的な扱い方、また幅広い知識に興味を持つことの重要性を生徒に学ばせる効果がある。

解を導く際には、複数の知識、スキルを必要とされる点も特徴である。複数の分野にまたがる知識を用いることで、地理をより立体的に見ることが出来るようになる。

このような考えさせる設問に答えるトレーニングを、学校教育で積むことで、イギリスの地理では、知識、スキル、意識の全ての力をつけることができるようになってきている。イギリスの地理は、実生活に役立つ、実学としての地理だと言える。

## 5. まとめ

イギリスの地理教育には、三つのシティズンシップ力全てが含まれていた。中でも特に、スキルと、相手に自分の意見を説明する力が重要視されていた。

GSCE 地理では、記述問題が、選択問題のおよそ八倍の配点になっており、記述問題が重視されていることがわかった。特に、「Describe」「Outline」「Explain」という問いの配点率が高く、それぞれ解答すべき方向性は異なるが、共通するのは、自分の意見を根拠立てて説明するスキルが必要であることだ。また、解を導く際には、複数の知識、スキルを必要とされる点も特徴である。一つの大問の中だけでも横断的なテーマで展開されており、一つの事象に対して多角的な視点で考える力がつく。さらに記述問題は、客観的にわかりやすく伝えるための知識とスキルがなければ解答出来ないようになっていた。

日本のような点差を付けるための暗記重視の試験ではなく、スコアは9段階だが、シティズンシップ力を身に付け、主体的な市民に育てることを目的とした教育カリキュラムになっていることが確認できた。

付記：本稿は科研費（17K00800）の一環として実施しました。

## 主要参考文献

1. 中央審議委員会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」文部科学省 中教審第197号（2016年12月21日）
2. 渡辺敦子「イギリスの地理教科書にみるシミュレーションゲーム」新地理 32(1), p1-12 (1984年)
3. 上野一久「イギリスの「ナショナルカリキュラム地理」成立にみる地理教育改革—イギリス地理教育の歴史的考察を通して—」新地理 41(4), p1-13 (1994年)
4. 志村喬「イングランドにおける「ナショナル・カリキュラム地理」の改訂内容と改訂に対する評価」地理化学学会 地理科学 53(4), p297-310 (1998年10月28日)
5. 志村喬「英国「ナショナル・カリキュラム（2000年度版）」開発とジオグラフィカル・スキル」地理科学学会 地理科学 59(3), p149-156 (2004年07月28日)
6. 志村喬「「地域多様性をふまえた持続可能な空間環境を実現する地理教育—イギリスにおけるESD地理教育から—」日本社会科教育学会 社会科教育研究 2011(113), p9-20 (2011年)
7. 志村喬「現代イギリス地理教育の潮流と展望」人文地理学会大会 研究発表要旨 2012, p16-19, (2012年)
8. 志村喬「1960年代イングランド学校教育における「新しい地理学」の受容—新しい地理学の生成—」公益社団法人 日本地理学会 日本地理学会発表要旨集 2015(0) (2015年)
9. 森田康夫「イギリスの中学地理教科書と国土教育—英国の地理・地学一体教育から学ぶ「防災教育のカタチ」—」国土技術研究センター JICE report Report of Japan Institute of Construction Engineering (26), p103-116 (2014年)
10. 新井浅浩「イギリスのシティズンシップ教育市民としての自覚と能力の向上が選挙・投票の啓蒙につながる」私たちの広場 299 (2008年3月)
11. 奥村牧人「英米のシティズンシップ教育とその課題」国立国会図書館 調査及び立法考査局 青少年をめぐる諸問題 総合調査報告書 調査資料 (2009年2月)
12. 大津尚志，秋宗佑紀，原田朋香，須佐佳代「イギリス初等シティズンシップ教育に関する資料

- Don Rowe 著「シティズンシップ教育の導入  
小学校のためのハンドブック」— 武庫川女子  
大学大学院 教育学研究論集 第5号 (2010年)
13. 松尾祥子「イギリスの市民性教育に関する一考  
察—コミュニティ結合の取組を中心に—」九州  
大学大学院教育学コース院生論文集 (13), p31-  
49 (2013年)
  14. 若林佳枝, 葉袋奈美子「フィンランド地理教科  
書における都市計画教育」一般社団法人日本建  
築学会 日本建築学会北陸支部研究報告集  
(51), p359-362 (2008年07月27日)
  15. 國原幸一郎「防災教育における高等学校地理の  
役割—意思決定を促す地理情報の活用—」日本  
社会科教育学会 社会科教育研究 126 (2015  
年12月)
  16. Pearson Edexcel GCSE 「Geography A Foundation  
Tier」 (2015年)
  17. 経済産業省「シティズンシップ教育宣言」経済  
産業省経済産業政策局 (2006年)
  18. Pearson 「REVESE AQA GCSE (9-1) Geography  
REVISION GUIDE」 (2017年)
  19. 「GCSE Sciences: What are you being asked t  
o do in the exams?」 <<https://qualifications.pearson.com/content/dam/pdf/GCSE/Science/2016/teaching-and-learning-materials/GCSE-9-1-Sciences-Command-words.pdf>> 2018年10月30日アクセス.
  20. 「Command words」 <<https://www.aqa.org.uk/resources/geography/gcse/geography/teach/command-words>> 2018年10月30日アクセス.
  21. 「UNDERSTANDING EXAM QUESTIONS」 <<http://www.ksgs.cumbria.sch.uk/sites/default/files/attachments/page/Glossary%20of%20Exam%20Terms.pdf>> 2018年10月30日アクセス.
  22. GOV.UK 「The national curriculum」 Government  
Digital Service : <https://www.gov.uk/national-curriculum> (閲覧日: 2018年1月10日)
  23. 愛知県総合教育センター「シティズンシップ教  
育の視点でとらえ直す地理歴史科, 公民科の授  
業の在り方に関する研究」愛知県総合教育セン  
ター 研究紀要 第99集 (2009年)